GIGA スクールだより

No.2 令和3年12月23日 雲南市立加茂中学校

デジタルシティズンシップ教育と

デジタルシティズンシップ教育という言葉を聞かれたことがあるでしょうか。デジタルシティズンシップ教育とは、「優れたデジタル市民になるために必要な能力を身につけることを目的とした教育(坂本旬 2020)」です。



これまで、ネットやメディアに関するトラブルとしてネットいじめや有害情報、画像被害、健康 被害などがあり、それに対応するために情報モラル教育が行われていました。そこでは「こういう 使い方はやめよう」という言葉に代表されるように、抑制・他律的で、節度や思い やりなどが強調された指導を中心に行われてきました。(もちろん、すべての情報モ ラル教育が規制・制限ありきではありませんでした)

これまでよくおこなわれてきた メディアに関する教育

定まった行動規範やルールを教えて 徹底させる

抑制、他律的、節度を求める「こういう使い方はやめよう」「〇〇時間以上使用しない」「〇〇しない」ノーメディア等

それに対して、デジタルシティズンシップ 教育では、定まった行動規範やルールを教え て徹底するのではなく、行動の善悪を自分で 判断できる力を身につけさせることを目的 としています。

つまり、学校内外で日常的に使用することを前提とし、自分の判断による自律的な使用ができるようにしようとする教育です。そのために、ネットや機器使用の問題や使い方に

デジタルシティズンシップ教育

行動の善悪を自分で判断する力を身に つけさせることが目的 自律、自分で判断 自分なりのルールを決める 学校内外で日常的に使用することを前提

デジタルシティズンシップ教育の内容

- ・セキュリティと ID (個人データの保護)
- デジタル足跡 (オンラインでの発言や行動などの履歴)
- メディアバランス (デジタル生活のバランス)
- 対人関係とコミュニケーション
- ・ネットいじめ、もめごと、ヘイトスピーチ
- ニュースとメディアリテラシー (情報の批判的思考と創造)

ついて自分で考え、自分なりのルールを決めていきます。

もちろんタブレット配布にあたって最低限のルールや約束事については、先日、雲南市教育委員



会・加茂中学校から配布した「学習用タブレット貸与に係る遵守・同意事項」に明記されているとおりです。そのうえで、危険性や健康被害等を自分の判断で回避しながら活用していく力をつけさせようとするものです。

本校で12月に行った授業

12月15日には、鳥取県情報モラルエデュケーターの今度珠美先生においでいただき、学年別に授業をしていただきました。

1年生「写真投稿アプリと友達」

友達と行っている写真投稿アプリに振り回され、今後も使い続けなければならないのか悩んでいる生徒に共感し、悩みを解決する方法をグループで考えました。さらに、解決方法により生じる悪い点に対処する方法を考えました。

ネットや SNS を使うときは勉強面や気持ち面で負担がかからないようにしたい。自分の好みや考えを押し付けないようにしたいと思った。



投稿やコメントされることが好きでない人もいるので、まず相手の気持ちを理解し、それを実行したい。SNS は身近なので取扱いに気を付けて自分も相手も大切にしたい。

2年生「自分のブライバシーをどのように守りますか」

ほしかった靴をサイトで閲覧していると、関連した企業の CM や商品のサイトがよく出てくるようになった。その原因を考えながら、自分のプライバシーを守るために自分でできることを考え、教えていただきました。

情報を渡したくないときは自分 で選択できることが分かった。 これから正しい判断をしてメデ ィアと接したいと思った。 自分が投稿したり検索したりすると、どこかに記録されているかもしれないと知って驚いた。 アプリは設定を見て、安全に利用できるようにしておきたい。

3年生 「自分に合ったメディアバランスを考えよう」

デジタルメディアの 3 つのデザイン①依存的なデザイン(頻繁に使いたくなるように作られた機能や特徴)②フィードバックループ(反応が返ってくることで、脳が一時的に喜ぶ)③人間的なデザイン(生活にとって良いこと・役立つことを優先した機能や特徴)のうち、自分はどのデザインのメディアを使っているかを考え、それらをバランスよく上手に利用するための方法と行動を考えました。

メディアにはいろいろあること や3つのデザインがあること、そ してそれぞれにいろいろな意味 があることが分かった。 自分がよく使うデザインは依存的に使っていることが多かったので、それらは気分転換などに使うようにし、人間的なデザインに少しずつ変えるようにしていきたい。

最後に

GIGAスクール構想があるからというだけでデジタルシチティンシップ教育をしないといけないのではありません。生徒はすでに多くのデジタルメディアに接し、多くのアプリを使いこなしています。これからデジタルメディアは一層発達し、使いこなすことが必要になることでしょう。デジタルシティズンシップを身につけることは、これからの社会を生きていくうえで、必要な力になっていきます。本校では、一度にというわけにはいきませんが、今後、計画的にデジタルシティズンシップ教育を進めていきたいと思います。